

さんさん 燦燦ニュースレター

ニュースレター刊行のご挨拶

会長 濱口吉右衛門

燦燦会ニュースレターの刊行にあたりひとことご挨拶申し上げます。

上智大学金祝燦燦会は、2012年に1960年卒業生が金祝を受けた際、上智の精神である「他者のために他者とともに」に沿った活動を行うために発足したボランティアの団体で、本年で設立7年を迎えます。

燦燦会は卒業50年の金祝を迎えて初めて入会資格を得るシニア世代会員によって構成されるきわめてユニークな会で、発足以来毎年40名前後の入会を得て現在350余名が会員になっております。当初より上智大学に世界から来日して学ぶ留学生を支援することを活動の目的とし、その支援のために様々な活動を行ってきております。その活動は300を超える上智大学ソフィア会関連団体の中でも極めてユニークかつ活動は活発でありまして、参加する留学生だけでなくソフィア会、大学関係者からも高い評価を与えられております。

このたび燦燦会では、その活動内容を広く普及することによって、会員とのコミュニケーションおよび会の発展に資するために、「燦燦ニュースレター」を発行することにいたしました。このニュースレターによって、燦燦会の活動がより多くの皆様のご理解と共感そしてご賛同を得ることができればと念願しております。担当者一同有意義な紙面作りを心掛けて参りますので、各方面のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

金祝燦燦会の活動内容

上智大学金祝燦燦会は、「他者のために他者とともに」の精神に沿った活動として、外国人留学生(世界85か国から1600人に達します)を支援するための制度やイベントを提供しております。現在の活動は以下4点です。

- 1 「金祝奨励金」という留学生のための勉強奨励金の支給(毎年7月授与)と「一口千円」募金の実施(3月)
- 2 留学生による俳句コンテストの実施(春と秋学期の二度実施)
- 3 留学生日本語スピーチコンテストと「お休み処」設営(毎年5月のASF)
- 4 燦燦会総会・懇親会(年1回4月)および企画・運営会議の実施(毎月)



目次:

- 刊行のご挨拶、活動内容……………1
- 金祝燦燦会総会・懇親会……………1
- スピーチコンテスト・お休み処……………2
- 留学生による俳句コンテスト……………3
- 金祝奨励金・「一口千円募金」……………4
- 燦燦会への御誘い・編集後記……………4

今月のハイライト

毎年4月の金祝燦燦会の総会が、4月8日オールソフィアンズクラブで40名の会員が参加して開催されました。

冒頭、濱口会長から基調講話があり、本題では2018年度の活動報告、会計報告および会計監査報告が行われました。また、2019年度の活動が会計計画とともに報告され、大方の賛同を得て承認されました。

総会終了後、参加者全員で記念撮影および懇親会が催されました。58年卒から10年に及ぶ老若男女の語りからはいつまでも笑顔が絶えませんでした。次回はより多くの方の参加を期待します。

留学生による日本語スピーチコンテスト + ASF金祝お休処




2012年5月、金祝燦燦会はその最初の企画として「留学生による日本語スピーチコンテスト」を上智大学W. カリー元学長のご指導のもと行いました。同年のASFに1号館の101教室で行われた催しは大成功を納め以後のコンテストの礎を築きました。

2013年には同じ「日本語スピーチコンテスト」(5月ASF)と並び、「日本語によるお国自慢スピーチコンテスト」が祖師谷国際交流会館で11月に行われ、以後2017年まで2つのコンテストが並行して開催されました。5年間にわたって2つのスピーチコンテストで表彰された留学生は68名に上ります。燦燦会は2019年よりは、5月のASFでのスピーチコンテストに専念することとなり、従来以上の参加者が期待されます。

毎年5月のASFでは、この「日本語スピーチコンテスト」と並んで大学1号館の隣室101教室で燦燦会による「お休処」が設けられ、軽食の提供と写真展や海外紹介などのイベントが催されます。ASFでは卒業50年の金祝セレモニーや祝賀会が同時実施されますので、これに出席される金祝生を交えて燦燦会の会員及び留学生などとの交流が行われます。この「スピーチコンテスト」と「お休処」は今年のASFでも計画されています。

「日本語スピーチコンテスト」参加者からは、「一番のチャレンジはスピーチコンテストだったが、難しい日本語を学ぶのが楽しくなった。大切なことは頑張ること。燦燦会がいろいろ教えてくれて有難う。」(シンガポール、メロディ・マダバン)といった言葉を頂いております。また、関係者からも高く評価されており、前上智学院理事長からは「卒後50年を経たソフィアンが母校に集い、特に留学生への奨学金や日本語スピーチコンテストの開催など活発な活動をされている姿は、私どもの大きな励みを与えています。」との祝辞を頂きました。

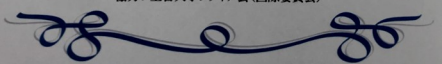


第8回
留学生による「日本語スピーチコンテスト」

日時：2019年5月26日(日) 12時開始
場所：1号館 102 教室
演題：「日本の文化に接して」5分間
・自国と大きく違うところ、驚いたところ、面白いところ、良いところ、嫌いなところ、等
参加資格：海外からの上智大学留学生
(入学が規定する在留資格の留学生または外国人学生)
募集人員：12名(含補欠2名)
応募締切：2019年5月12日(日)

賞金：1位 20,000 円、2位 10,000 円、3位 5,000 円
参加賞：浴衣セット(参加者全員)

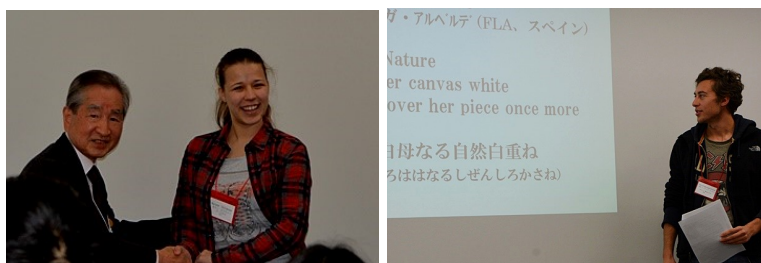
申込み及び問い合わせ先：sanskankai@sophiakai.gr.jp
主催：上智大学金祝燦燦会
協力：上智大学ソフィア会(国際委員会)



上智大学留学生の「俳句コンテスト」(年4回、本年より学期毎2回に)

留学生による「俳句コンテスト」は、カー元学長と国際教養学部(FLA)のウィットマー教授のご協力を得て2017年6月に第1回を行い、その後年4回ペースで2018年まで行われました。

応募作は延べ138名、日本語作品130句、英語作品240句、計370句。選考は日本語作品にはソフィア俳句会の有志の方に、英語作品はカー、ウィットマー先生および第5回からはA.ユー AFL教授にも加わって頂いています。第2回からは英語作品に日本語の試訳を添えて発表しています。各回ごとに、優秀作品への賞金を授与する表彰式と燦燦会員との懇親会があり、参加者全員には記念品が贈られています。



俳句コンテストにどれだけの応募があるか、当初は不安がありました。しかし初回から応募者は19か国から13名に上り、18年秋には15か国、49名にまで増え、俳句に対する関心の高さが窺えます。2019年よりはコンテストは学科の学期に合わせて春(5-6月、7月表彰式)と秋(11-12月募集、1月表彰式)の2回になりますが、益々多くの留学生の参加が期待されます。

留学生の俳句の審査員A.ユーAFL教授が第6回コンテストの表彰式(19年1月17日)で述べられたコメントでは、「英語の俳句では、美しい対比をするために日本と外国という二つの目を持つことが大切で、皆さんの健闘は素晴らしい」というものでした。当日は25人の燦燦会員、学院関係者等を含めて40名の参加があり、懇親会では学生との懇談に花が咲きました。

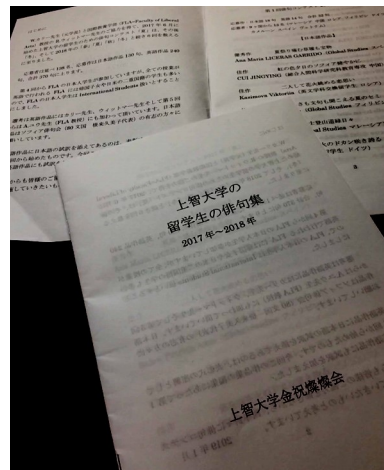


今後は、茶道や書道といった代表的な日本文化に親しむ機会を留学生に提供することを計画しております。

外国人留学生が詠んだ句集「上智大学の留学生の俳句集」は、2017年6月から始まった俳句コンテスト(年4回)の18年秋まで6回分の秀作をまとめました(会に残部があります)。

紙面の都合で日本語作品の優秀作のみを掲載しますが、句集には佳作全てが掲載されていますのでご高覧をお勧めします。

以下紹介します。



第1回 2017年「夏」計32句、9か国13名応募

Ana Garrido (Spain)

夏祭り痛む草履も宝物

第2回 2017年「冬」計:43句 10国14名

Xu Quzhen (China)

雪の夜終電を降り歩く音

第3回 2018年「春」計:33句 7国11名

Wang Zhizhuang (China)

迷わずに舞ひ落ちてくる山桜

第4回 2018年「夏」計:86句 13国33名

Ellie Mikawa (USA)

夏の空ふと見上げると切なくて

第5回 2018年「秋」計:130句 15国49名

Bianco Francheska (Italy)

君の眼は私に落ちた天の川

第6回 2018年「冬」計:46句 8国18人

Shu Yiduo (China)

天狼を包む澄み切る夜空かな

金祝奨励金（金祝燦燦会勉学奨励金の略称）と「一口千円」募金

2012年に発足した金祝燦燦会の最初の企画は「留学生の日本語のスピーチコンテスト」ですが、次に実施したのが「金祝奨励金」制度です。上智大学創立100周年を迎えた2013年に導入しました。ただ単独で「奨学金」制度を作るほどの財力がないので、大学に相談して既存の「アジア留学生」という篤志家による奨学金の副賞という形をとらせてもらい、「金祝奨励金」としたのです。現在までに6か国、33人が対象になりました。

「アジア留学生」奨学金は当初5名の学生に121千円支給されましたが、副賞の金祝奨励金は5万円としました。そしてその原資を得るために会員の皆さんに「一口千円」の寄付をお願いすることにしました。当時は136名の会員でしたので5名に5万円をお約束するのは難しいかと考え、「上智大学奨学金案内」の掲示には、2名～5名に5万円支給するとおっしゃっていただきました。お願い状を発送したところ嬉しいことに73名の会員の皆さんから355千円のご芳志が寄せられ、首尾よく5名全員に支給することができました。

その後毎年増え続ける会員の皆さんに「金祝奨励金のため」に「一口千円」のご寄付をお願いしてきましたが、2017年からは「一口千円」募金の使途を「金祝奨励金」に限らず、広く「留学生支援のため」と改めさせて頂いています。そして2018年の第6回の金祝奨励金は従来の「アジア留学生」5名に加え、ナイジェリア、マラウィ、エルサルバドルからの3名の学生にも5万円ずつ支給しました。これを機に19年からは「アジア留学生」の5名の枠を発展的に解消し、アジアも含めた世界各地から1国1名の原則の下に、8名の留学生に金祝奨励金を支給することにしています。

「奨学金のおかげで授業料を払い、最終学年の経済的負担を減らして授業に専念でき、おかげで博士論文も無事提出できました。ソフィアの誇りと志を高く持ち、日々精進していきたいです」

(2016年奨学金受給者 キョシン 中国)



まだ会員でない方に

「金祝燦燦会へのお誘い」

金祝燦燦会で同窓の仲間と充実したシニアライフを過しませんか？上智大学で金祝を迎えた方だけが参加できる団体が金祝燦燦会です。燦燦会では活動の基本は「できる人が無理をせずユックリと」に置いています。月一回の運営会議や企画・イベント準備は、会員の発意と自主性によってソフィア会ラウンジなどで運営されます。

こうした燦燦会のような存在は、他の大学の同窓会を見渡しても皆無です。卒業50年以上のシニア世代のアクティブなボランティア活動としてもユニークな場になっているところでもあります。今年金祝をお迎えになられた方をはじめ、金祝燦燦会へのご参加をぜひ前向きにご検討頂き、私たちと一緒に活動されることをお勧めします。

金祝燦燦会への入会手続き

- 会費は終身会費1万円です
- 郵便払込取扱票で卒年、学部、学科、電話、住所、メールアドレスを記入しお手続き下さい。
- または入会ご希望を下記にご連絡下さい。払込取扱票をお送りします。

上智大学金祝燦燦会

〒102-8554千代田区紀尾井町7-1
上智大学ソフィア会事務局4付
Tel: 03-3238-3041
✉: sansankai@sophiakai.gr.jp

編集後記；ここに「燦燦ニューズレター第1号」をお届けできることを嬉しく思うと同時に、制作に当たってご助力頂いた燦燦会会員の方のサポートに感謝いたします。特に、記事を作成頂いた江澤さん、石川さん、宇多さんをはじめ、写真提供等で協力頂いた相良さん、谷道さんに御礼申し上げます。（ニューズレター編集グループ 関谷）